

## テーマ：家計調査（2006年11月）

発表日：2006年12月26日（火）

～ 10-12月期のGDPは高い伸びになる可能性高まる ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 新家 義貴  
TEL:03-5221-4528

## （要旨）

- 11月の家計調査実質消費支出（全世帯、農林漁家世帯含む）は前年比▲0.7%と、事前の市場予想を上回った。QE個人消費の需要側推計値の作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比▲0.1%（10月同▲2.9%）と改善している。
- 家計調査はGDPベース個人消費の主要な基礎統計の一つであるため、10-12月期のGDPベース個人消費は7-9月期の反動もあって高い伸びになる可能性がでてきた。他の需要項目も今のところ比較的好調であり、10-12月期のGDPは高成長が見込まれる。
- ただし、10、11月の家計調査はサンプル要因により押し上げられている面も大きいとみられ、どこまで実態を表しているかは疑問。秋口以降の個人消費関連統計は強弱入り混じっており判断が非常に難しいが、総合的に判断すれば、個人消費は足元で緩やかに持ち直しているといった程度の評価が妥当と思われる。

（%）

|    |     | 実質消費支出<br>(全世帯) |       | 実質可処分所得<br>(勤労者世帯) |       | 消費性向<br>(勤労者世帯) |       |
|----|-----|-----------------|-------|--------------------|-------|-----------------|-------|
|    |     | 前年比             | 前期比   | 前年比                | 前期比   | 季調値             | 前年差   |
| 05 | 9月  | 1.6             | ▲ 0.4 | ▲ 2.5              | 1.2   | 74.7            | 2.0   |
|    | 10月 | 2.0             | 0.3   | ▲ 0.2              | 0.5   | 75.2            | 1.4   |
|    | 11月 | ▲ 0.5           | ▲ 1.3 | ▲ 1.3              | ▲ 0.3 | 75.6            | 2.1   |
|    | 12月 | 0.5             | 0.0   | ▲ 1.1              | ▲ 2.2 | 77.1            | 2.0   |
| 06 | 1月  | ▲ 2.4           | ▲ 1.4 | ▲ 2.5              | 1.9   | 75.1            | ▲ 1.3 |
|    | 2月  | ▲ 1.0           | 0.3   | ▲ 1.8              | 0.8   | 75.4            | 1.3   |
|    | 3月  | ▲ 1.6           | ▲ 0.5 | ▲ 4.7              | ▲ 5.0 | 74.1            | 1.2   |
|    | 4月  | ▲ 1.5           | 0.4   | ▲ 4.3              | 6.4   | 71.1            | 0.4   |
|    | 5月  | ▲ 1.3           | 1.3   | ▲ 2.9              | ▲ 4.9 | 76.2            | 0.7   |
|    | 6月  | ▲ 1.7           | ▲ 0.9 | ▲ 6.2              | ▲ 2.5 | 76.2            | 1.7   |
|    | 7月  | ▲ 1.3           | ▲ 1.7 | 5.6                | 12.2  | 68.5            | ▲ 4.8 |
|    | 8月  | ▲ 4.3           | ▲ 0.6 | 2.3                | ▲ 4.5 | 69.8            | ▲ 5.4 |
|    | 9月  | ▲ 6.0           | ▲ 2.0 | ▲ 0.7              | ▲ 1.9 | 70.3            | ▲ 5.2 |
|    | 10月 | ▲ 2.4           | 4.1   | ▲ 0.9              | 0.3   | 73.8            | ▲ 1.7 |
|    | 11月 | ▲ 0.7           | 0.5   | 1.1                | 1.7   | 73.9            | ▲ 2.1 |

（出所）総務省「家計調査報告」

## ○ 強めの結果

11月の家計調査実質消費支出（全世帯、農林漁家世帯含む）は前年比▲0.7%と、事前の市場予想（▲1.5%、レンジ▲3.0%～+0.5%）を上回った。季節調整済み前月比も+0.5%と、前月の高い伸びの後にもかかわらずプラスとなっている。QE個人消費の需要側推計値の作成に際して控除される品目を取り除き、世帯人員を調整したベースで計算しても前年比▲0.1%（10月同▲2.9%）と改善している。

家計調査では10月に大幅に改善していたため、11月にはある程度の反動減が出ると予想していたのだが、目立った反動は出ず、むしろさらに改善する結果となった。強めの結果といって良いだろう。10-11月で均してみても、7-9月期から大きく改善している。

## ○ 10-12月期のGDPは高成長になる可能性が

家計調査はGDPベース個人消費の主要な基礎統計の一つであるため、10-12月期のGDPベース個人消費は比較的高い伸びになる可能性がでてきた。12月28日公表予定の家計消費状況調査は家計調査ほどは改善しないと予想されるが、その要因を加味しても、GDPベース個人消費の需要側推計値は高い伸びになる可能性が高いだろう。7-9月期のGDPでは個人消費が押し下げ要因になっていたが、10-12月期は逆にGDPを大きく押し上げることになりそうだ。

その他の需要項目についても、今のところ比較的良好な動きとなっている。まず外需については、輸出が引き続き底堅いことに加えて輸入がやや伸びを鈍化させており、7-9月期に続いて10-12月期も外需寄与度がプラスになる可能性が出ている。設備投資に関しても特に足元で落ち込む材料は見当たらず、増加基調は続きそうだ。また、大幅なマイナスが続いていた公共投資に関しても足元でようやく下げ止まりつつあり、10-12月期についてはマイナス寄与が大幅に縮小する見込みである。在庫次第の面はあるが、現時点では10-12月期のGDPは年率3%成長も十分射程圏内にある。

## ○ 個人消費の実勢は？

ただし、今に始まったことでもないが、このところの家計調査はサンプル要因と思われる振れが特に大きいことには注意しておく必要がある。7-9月期の家計調査は他の消費関連統計に比べて極端に低迷していたが、逆に10、11月は他統計でみるよりもかなり上振れている。この持ち直しのうち、どの程度が実勢としての消費を表しているのかは、正直言ってよく分からない。秋口以降の個人消費関連統計は強弱入り混じっており判断が非常に難しいが、総合的に判断すれば、個人消費は足元で緩やかに持ち直しているといった程度の評価が妥当と思われる。

日本銀行も、家計調査のサンプル要因による振れが消費の実勢を把握する上での攪乱要因になっていることを指摘しており、10、11月における家計調査の持ち直しが即個人消費の回復に結びつけられる可能性は低いと思われる。あくまで、他の統計も合わせての総合判断というスタンスをとるだろう。明日公表の商業販売統計や、28日公表の消費財出荷の動きなども注目していきたい。

